

ハイアット リージェンシー 東京 レトロスポット

日本初のハイアットとして、創業1980年（昭和55年）からあり続ける、ハイアット リージェンシー 東京のレトロスポットをご紹介します。



ロビーに輝くシャンデリア

高さ28メートルのアトリウムロビーに煌めくホテルのシンボル3基のシャンデリアが、お客様を非日常的な空間と時間にお誘いします。直径約4メートル、高さ約8メートルのシャンデリアには、スワロフスキー®製のクリスタルビーズを約11万5000個使用しています。年に一度、ビーズやワイヤーの点検・洗浄、電池交換等のメンテナンスを行い大切に使用しています。3階の踊り場のフォトスポットからは、シャンデリアと人物を綺麗に収めることができます。

イタリア産の大理石を使用しているロビーの床や壁には化石が埋まっています。正面玄関入ってすぐの柱を目を凝らして探していただくと、直径約12cmのアンモナイトの化石をご覧いただけます。レトロをはるかに飛び越えた古代にまで思いを馳せて化石探しをしてみてもいいかもしれません。



ロビーに眠る化石



4つのC

ハイアット リージェンシー 東京は「ホテルセンチュリー・ハイアット」として開業しました。当時使用されていた4つのCが重なったモチーフ「4Cマーク」は現在は使われておりませんが、館内にはまだ数箇所残っています。このマークは、「Confident Cordiality Creates the new Century」（確固たる誠意が新たな世紀を創り出す）の頭文字の4つのCを意味しています。ホテル名は変わりましたが、誠意あるおもてなしの心でお客様をお迎えするという想いは今も昔も変わりません。



シースルーエレベーター

ロビーからご覧いただける上下に動くキラキラの楕円の正体はシースルーエレベーター。シャンデリアを間近に感じることができます。ゴールドの内装やシャンパンゴールドのライト、懐かしい雰囲気の数々が並ぶ階数表示盤に囲まれた空間では、アトラクションに乗っている気分を味わっていただけます。

ホテルが建つ前この地に「淀橋浄水場」があったことにちなみ、ホテルのバーはフランス語で「生命の泉」を意味する「オードヴィー」という名がつけられました。店舗の外壁は浄水場で使われていたレンガを砕いた素材を使用しています。ロビー上部にも施されているヴェネチア製のステンドグラスをバーでは間近にご覧いただけます。



生命の泉 バー「オードヴィー」



外壁のラテン語

“PAX INTRANTIBVS SALVS EXEVNTIBVS”

「訪れる人に安らぎを、去りゆく人に幸せを」を意味するラテン語をホテル1階の南側入り口の外壁に掲げています。ドイツのローテンブルクの「シュピタール門」に刻まれたこの言葉を胸に、お客様を真心と笑顔でお迎えしています。